

## 夜景サミット 2017in タイ報告書（概要）

長崎市議会議長 野 口 達 也

長崎市議会議員 浅 田 五 郎

長崎市議会議員 毎 熊 政 直

長崎市議会議員 向 山 宗 子

### 1 訪問の目的

平成21年以降、夜景観光活性化に尽力する行政、民間企業が一堂に会する場として夜景サミットが開催され、長崎市は、平成24年10月の夜景サミットにおいて、香港、モナコとともに「世界新三大夜景都市」に認定された。また、平成27年10月には札幌市、神戸市とともに「日本新三大夜景都市」に選定されている。

そこで、日本の夜景の素晴らしさ、美しさを伝えることはもちろん、多くの外国の皆様に向けた観光コンテンツとして認知を図るべく、これまで多くの反響を呼んだ香港（2013年）、台湾（2014年）、ベトナム（2016年）に引き続き、一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューロー主催による「夜景サミット2017inタイ」が開催されるため、長崎市においても「長崎夜景」の魅力、美しさなどをPRすべく、行政とともに市議会からも夜景サミットに参加することとした。

また、タイの概況や日本企業の進出状況などについての調査を行うため、「JETRO（日本貿易振興機構）バンコク事務所」を訪問することとした。

2 訪問期間 平成29年7月5日（水） ～ 7月8日（土）（4日間）

3 訪問都市 タイ・バンコク市

#### 4 日程

月日	時 間	発・着	行 程
7/5 (水)	7 : 0 0	議会事務局 発	議会マイクロバス
	1 1 : 3 5	福岡空港 発	TG 6 4 9 便
	1 4 : 5 5	スワンナプーム 国際空港 着	入国手続き後、専用車でホテルへ
	1 8 : 3 0 ~ 2 1 : 0 0	ホテル 発 ホテル 着	前夜祭、バンコク市内夜景視察
7/6 (木)	1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0		・JETRO（日本貿易振興機構）バンコク事務所訪問
	1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0		夜景サミット in タイ（セミナー）
	1 7 : 3 0 ~ 1 9 : 0 0		意見交換会
7/7 (金)	7 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0		水上マーケット、アユタヤ遺跡視察
	2 0 : 3 0 ~ 2 1 : 0 0		夜景観賞（バイヨークスカイホテル 79 階）
	2 2 : 0 0	スワンナプーム 国際空港 着	
7/8 (土)	0 : 5 0	スワンナプーム 国際空港 発	出国手続き、TG 6 4 8 便
	8 : 0 0	福岡空港 着	
	9 : 0 0	福岡空港 発	議会マイクロバス
	1 1 : 3 0	議会事務局 着	

## 5 調査概要

7月5日（水）

### （1） バンコク市内夜景視察

一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューロー主催によるバンコク市内の夜景視察を車窓から行った。

#### ○ 旧国会議事堂（アナンタ・サマーコム宮殿）

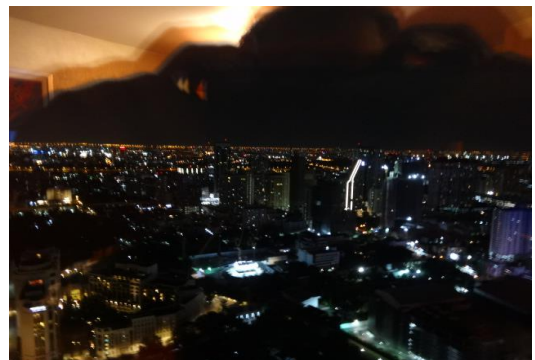
当時、ウィマンメーク宮殿を生活の場に使っていたラマ5世が迎賓館として使用するために、1907年に建設を命じ、1915年に完成。

#### ○ ワット・ラーチャナッターラーム

バンコクで最も独創的な寺院とされており、ピラミッド型のピンクのローハ・プラサート（金属状の尖塔）は、世界で現存する唯一の仏塔だと言われている。

#### ○ ワット・プラ・ケオ（王宮寺院）

エメラルド寺院の通称で知られており、1782年にラマ1世が現在の王朝であるチャクリー王朝を開いたときに護国寺として建てた寺院。敷地内の黄金の仏塔には仏舍利（仏陀の遺骨）が納められている。



7月6日（木）

### （1） JETRO（日本貿易振興機構）バンコク事務所視察

JETROバンコク事務所を訪問し、タイの概況及びアセアン経済について、担当者から説明を受けた。

JETROは、日本の貿易促進と対日直接投資に関する事業の総合的な実施及び開発途上国地域の総合的な調査研究を通じて、諸外国との貿易拡大及び経済協力を促進し、日本の経済・社会のさらなる発展を目指しており、日本国内はもとより、海外にも多くの事務所を配置している。

バンコク事務所では、タイの経済・政治状況に関する情報の収集・分析、日本からタイへの企業進出やタイから日本への企業進出をサポートするためのセミナー開催等の各種情報提供、日本の中小企業や中小企業支援機関にタイでの投資環境に関

する情報提供を行うとともに、在タイの日系中小企業向けセミナーの開催やアドバイス事業の実施などが行われている。

### 【タイの一般情報】

タイの人口は約6,796万人、ASEANの中でインドネシア、フィリピン、ベトナムに次いで4番目で、国土面積は51.3万km<sup>2</sup>（日本の約1.4倍）となっている。

タイの人口構成（2015年）は、20歳未満人口で24.2%と若年層人口の割合は少なく、既に65歳以上が人口の10.5%と高齢化社会に入っている。

教育制度は日本と同様、6-3-3-4制を導入している。初等教育及び前期中等教育が義務教育である。近年、中等教育、高等教育の在学率が上昇しており、特に高等教育の在学率が高いことが特徴。なお、高校進学率は8割程度である。大学としては、一般的な大学のほかに、地域総合大学（地域の人材育成ニーズに応えるために設立）、工科専門大学（高度な技術の修得・研究を行うことを目的）などがある。なお、一般的な大学は129校（国立33校、公開大学2校、私立74校、コミュニティカレッジ20校）、地域総合大学38校、工科専門大学9校となっている。

医療面では、日本語が可能なタイ人医師、日本語通訳や日本人スタッフ（受付やコーディネーター）がおり、予約も可能となっている。総じて医療サービスや医療設備の水準は高く、中東、アフリカ、アメリカなどからの集客を狙い、メディカルツーリズムに力を注いでいる。高度な医療・検査体制と魅力的な観光地が武器となっている。

### 【タイの経済情勢】

タイ経済の構造を見ると、名目GDPは4,329億ドル（日本の約8.2%）、1人当たりGDPは5,899ドル（日本の約15.1%）、GDP構成比は1次産業約8%（1次産業の就業人口は約33%）、2次産業約36%、3次産業約56%で、タイ経済の高度化を図るためには1次産業の就業者の割合を減らし、付加価値の高い製造業やサービス産業の就業者の割合を高めることが急務となっている。

2016年の工業生産は、前年比0.4%増。年後半にかけて輸出セクターの持ち直しにより改善傾向が強まっている。2017年5月の工業生産指数は、前年同期比1.4%増と上昇に転じた。IC／半導体が同9.2%増と引き続き大きく上昇したことに加え、昨年の石油精製施設のメンテナンスにより生産が休業した影響により、石油が同7.1%増と前月から大きく拡大したことが要因となっている。

2016年の消費は、改善の兆しがあったものの、プミポン前国王崩御の影響を受け、年終盤に失速した。2017年5月の外国人観光客数は中国人の回復に加え、インド・韓国からの観光客の増加を受け、前年同月比4.5%増となった（2017年目標は3,430万人、1兆8,100億バーツ（約5兆9,000億円））。

輸出面では、2013年後半より世界経済の低迷、農産品価格の低迷、原油価格の下落（関連品の輸出価格の低下）などの影響で長期低迷が続いたが、2017年5月は前年同月比13.2%と増加した。一方、タイの主力輸出品である自動車は前年比11.3%減の8万7,147台と中東向けの輸出が大きく減り、マイナスが継続している。タイの輸出は、米国、中国、日本、ASEAN、EUと、輸出先がバランスよく分散されているのが強みとなっている。輸出先の割合は米国が第1位で、中国、日本と続き、周辺の

ASEAN向け輸出は特に増加傾向にある。2013年には、最大の貿易相手国は日本から中国となり、2014年には輸入金額でも中国に逆転された。

雇用情勢では、近年の失業率は1%程度の水準で推移し、企業の人手不足感は強い。製造業、建設業、観光業、技術サービスなどで就業者が増加している。外国人労働者は推定400万人とも言われている。インラック政権は、最低賃金を2013年1月1日から全国一律で同額の300バーツまで引き上げ、その後しばらく引き上げは見合わされたが、2016年10月19日の中央賃金委員会において、国内69県の経済情勢等に応じて最低賃金の引き上げを決定した。引き上げ幅は5から10バーツとなり、2017年1月から実施されている。

### 【タイへの投資状況】

2014年11月時点で確認された日系企業は4,567社（6年前に比べ683社増）で、近年ではサービス業や中小企業による進出が増加している。日系企業の進出はまだまだ続いているが、撤退する企業も多くなっている。

2014年の日系企業の投資は、洪水復旧投資（2012年）や大型の自動車関連投資（2013年）が一服し、前年比では減少したものの、高水準を維持した。自動車・同部品の投資が全体の73.4%を占め、関連産業も含めると圧倒的なシェアであった。2016年には前年同様、2014年末の旧投資恩典制度での駆け込み申請の反動の影響で引き続き低迷が続き、自動車産業など市況が悪化している中で生産余力を抱えている企業も多く、投資に慎重な姿勢が見られる。一方、電機・電子機器など好調な業種では大型投資も見られている。



## （2）夜景サミット2017inタイ

### ア 目的

- ① 日本における夜景の観光的価値の情報発信と共有
- ② 日本の行政・民間団体の担当者と、タイのアウトバウンド観光のキーマン、F I Tキーマン、旅行商品造成担当者等の関係各位との交流
- ③ 日本向け夜景観光商品の開発と実現

### イ 主催

一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー

## ウ 参加者

(日本国内参加者)

長崎市（加藤副市長、議員団）、札幌市、藤沢市、足利市、観光・イルミネーション施設、照明メーカー等の民間事業者

(タイ国内参加者)

訪日観光旅行エージェントの担当者、タイ政府観光関係者、マスコミ関係者等

## エ 会場

センタラ グランド アット セントラルワールドホテル

〈夜景サミット第一部 開会式〉 14:00-14:20

① 夜景観光コンベンション・ビューロー代表理事 丸々もとお氏より開会挨拶



② コブカーン・ワタナワランケン観光スポーツ省大臣挨拶（ビデオメッセージ）



③ 日本国内プレゼンターと来賓紹介



〈夜景サミット第二部 夜景観光情報説明会〉 14:20-15:30

① 長崎市加藤副市長挨拶



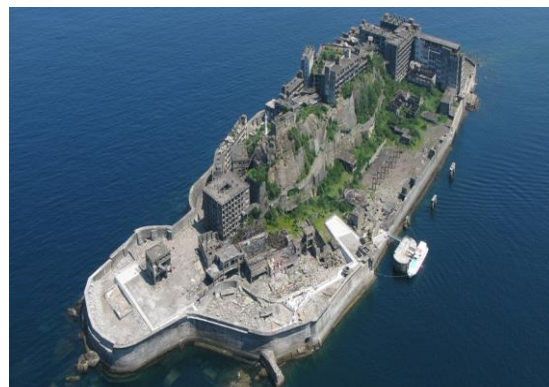
② 日本の夜景紹介&事例発表

訪日観光旅行エージェントの担当者、タイ政府観光関係者、マスコミ関係者等に対し、日本の行政・民間事業者より、夜景やイルミネーションについてプレゼンテーションが行われた。(タイ語での説明)

・長崎県長崎市



世界新三大夜景



端島 (軍艦島)

・栃木県足利市



織姫神社



1 万 m<sup>2</sup> (600 畳) の大藤

・北海道札幌市



大通公園



北海道庁旧本庁舎

・静岡県伊東市「伊豆ぐらんぱる公園」



イルミネーションと花火



世界最大級のランタン花畑



・神奈川県藤沢市

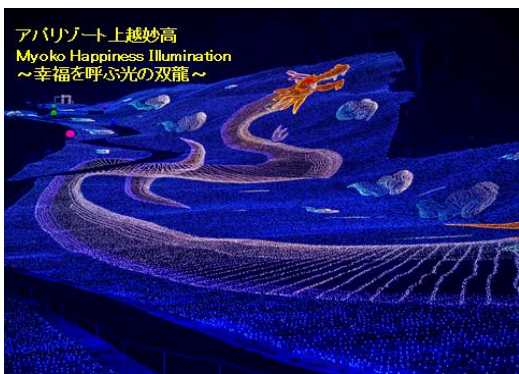


江の島シーキャンドル



江島神社

・新潟県妙高市「アパリゾート上越妙高」



幸福を呼ぶ光の双龍



光の大トンネル

・日本夜景応援大使任命式



〈夜景サミット第三部 商談会〉 15:50-17:20  
現地エージェントと日本参加者による商談会

〈夜景サミット第四部 意見交換会〉 17:30-19:00  
日本参加者とマスコミ・メディアとの意見交換会

7月7日（金）

（1）タイ視察

① ダムヌンサドゥアック水上マーケット

バンコクから南西約80kmのところに位置する文化保存と観光用に開発された水上マーケット。新鮮なフルーツや野菜、肉、魚介類などを山積みにした小舟が運河を所狭しと行き交い、景気のいい声が飛び交っている。



② アユタヤ遺跡

チャオプラヤ川ほとりに広がる古都の遺跡群。現在残る遺跡群は、アユタヤ歴史公園として整備され、1991年に世界文化遺産に登録されている。

